

■ 令和元年8月6日 建設委員会 県内調査

1 奈良公園バスターミナル

【調査目的】奈良公園バスターミナルの整備効果について

【調査概要】奈良公園バスターミナルにかかる事業概要の説明を受け、現地見学

<説明の概要>

- 奈良公園は大正11年に国の名勝指定、平成10年に世界遺産「古都奈良の文化財」に登録され、我が国を代表する公園として多くの観光客が訪れ、広く親しまれているが、行楽シーズンにおけるマイカーや観光バスによる奈良公園周辺の交通渋滞が大きな問題となっていた
- 平成31年4月13日に県庁本庁舎東側に奈良公園バスターミナルがオープン。同施設は大きく分けて、「バスターミナル機能」・「ガイダンス施設」・「おもてなし施設」の3機能を有している
- 「バスターミナル機能」により、公園中心部への観光バスの流入を抑制、「ぐるっとバス」等の運行によるマイカー流入を抑制することにつながり、より快適な奈良公園の周遊実現が期待されている
- 「渋滞の緩和」や「公園内の周遊環境の向上」を実現させるため、乗降場や交通コントロール施設がバスターミナル機能を担っている
- 奈良公園バスターミナルは観光バス等の「乗降場」として運用されており、バスの「駐車場所」ではないことを広報している
- 観光バスについては、奈良公園バスターミナルで観光客を降ろした後、高畑駐車場もしくは上三橋駐車場で駐機することになっている
観光客が奈良公園内で長時間滞在する場合は上三橋、短時間の場合は高畑に誘導することになっているが、どちらも概ね30分以内で駐機場まで到着することが可能
- 奈良公園周辺の環境に配慮するため、高畑駐車場の利用にあたっては、奈良公園南側のルートを通って駐車場に向かわせることにより、公園内への観光バス流入を抑制し、交通渋滞の原因とならないよう配慮している
- 「ガイダンス機能」として、バスターミナルの中には、県内の魅力ある情報を案内・発信し、滞在観光を促進させるための施設として、歴史展示や300人収容可能なレクチャーホールがあり、奈良公園周辺のガイダンス施設としての役割を担っている
- 「おもてなし機能」として、ターミナルの中で快適な休憩時間を過ごしてもらい、アメニティの向上やリピーターの創出につなげてもらうため、飲食・物販店舗や展望の良い休憩スペース等も整備している



2 県道枚方大和郡山線 中町工区

【調査目的】 県道枚方大和郡山線 中町工区及び（仮称）中町「道の駅」整備事業地の現況確認、今後の整備予定について

【調査概要】 上記に係る事業概要の説明を受け、現地見学

○主要地方道 枚方大和郡山線 中町工区について

<路線及び工区の概要>

- 奈良県北西部に位置する南北幹線道路であり、延長約1.6kmの道路整備事業
- 第二阪奈有料道路へのアクセス道路であり、奈良県道路整備基本計画（平成26年7月）において、骨格幹線道路ネットワークにおける路線の線的整備箇所として重点的な整備を推進する路線に位置付けられている

<道路事業の整備効果について>

1. 交通渋滞の緩和

- ・中町工区の前区間は4車線として供用済みであり、当該区間のみ2車線であり、かつ道路幅員も狭いため、スムーズな走行に支障が生じている。砂茶屋橋東詰交差点付近については、奈良県の主要渋滞箇所として公表済み。
- ・道路整備により、円滑な交通流が確保され、第二阪奈有料道路へのアクセスの向上、交通渋滞の緩和が期待される。

2. 交通安全性の向上

- ・枚方大和郡山線中町工区の現道は、道路幅員が狭く、歩道もないため、歩行者には危険な状況となっている。また、通学児童が現道を横断する際の待ちスペースがなく、危険な状況となっている。
- ・中町工区の整備により、円滑な交通が確保されることによる追突事故の減少、歩道整備による歩行者の安全確保、通学路へ迂回する車両の交通が転換することによる通学路の安全性の向上が期待される。

3. 救急救命活動の支援

- ・枚方大和郡山線は、平成30年5月に移転した奈良県総合医療センターへの重要なアクセス道路である。
- ・中町工区の現道は、渋滞などで緊急搬送時に遅れが発生する恐れがある。
- ・道路整備により、救急搬送の円滑化が期待される。（一般車両では1分の短縮）

○（仮称）中町「道の駅」について

<基本計画の概要>

（仮称）中町「道の駅」周辺では、当該地域の魅力向上に繋がるよう近隣の県営公園や郡山城跡等を活用した拠点づくりを検討しており、これら観光施設のゲートウェイ機能を持たせるとともに、地域農業と連携し、スローライフを体感できる施設として、（仮称）中町「道の駅」を整備

3 桜井市上慈恩寺谷（通常砂防事業）

【調査目的】砂防事業地の整備について

【調査概要】砂防事業にかかる事業概要の説明を受け、現地見学

<事業概要>

- 所在地：桜井市上慈恩寺谷
- 保全対象：一般県道 中和幹線（地域高規格道路・第1次緊急輸送路）
一般県道 県道慈恩寺三輪線
老人福祉施設 三輪の里（24時間利用の要配慮者利用施設）
- 全体事業費：363百万円
- 工種：砂防えん堤工1基
- 工期：平成23年～平成30年

<事業の特徴>

- 保全対象に老人福祉施設が含まれていることが、本事業の大きな特徴
- 平成22年に県で策定した、「奈良県土砂災害対策基本方針」の中に、「選択と集中によるハード対策を優先する箇所」として、「自力で避難することが困難な方が24時間入居している災害時要援護者関連施設」があげられており、本事業の保全対象施設もこれに該当する
- 「災害時要援護者関連施設」を守る対策を先行的に実施した事業であるため、予防保全としての位置付けにあたる事業となっている
- 施設の流域面積は0.05km²であり、通常砂防事業としては比較的小さな部類にあたるが、2本の川が合流する地点にあるため、災害発生時に想定される土石流は2,400m³
これらの土石流を当該砂防えん堤で止める役割が期待されている
- 砂防指定地としての指定から、用地買収、工事開始、供用までが8年間で済み、砂防事業としては非常にスムーズにいった事例であるといえる



4 JR畝傍駅舎

【調査目的】 鉄道駅を中心とした市街地まちづくりについて

【調査概要】 JR畝傍駅の沿革にかかる説明を受け、現地見学

< JR畝傍駅について >

- 開業： 明治26年
- 改築履歴等： 昭和3年、昭和15年
※現在ある駅舎は昭和15年改築時のもの

< JR畝傍駅貴賓室の使用について >

- 戦前： 橿原神宮や畝傍御陵に皇族が参拝する際の最寄り駅として使用
- 選後： 昭和27年： 昭和天皇が新日本誕生、講和条約成立奉告に橿原神宮訪問時
昭和34年： 明仁上皇成婚時の橿原神宮への報告参拝時
※以後の使用なし

